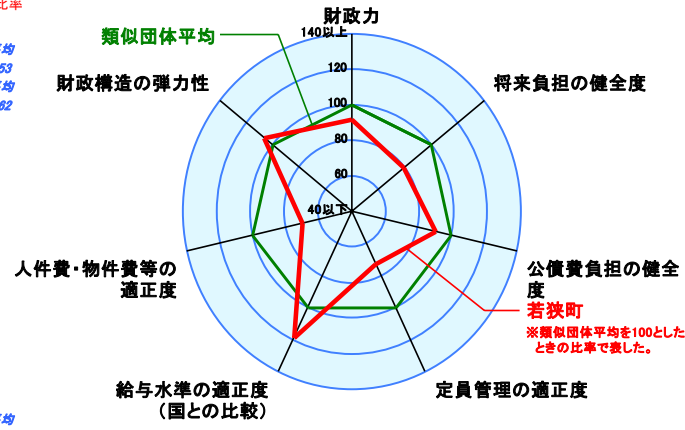
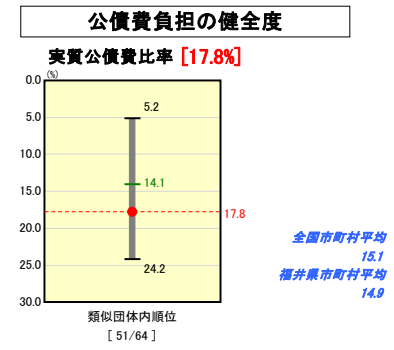
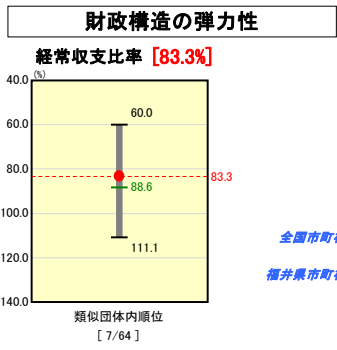
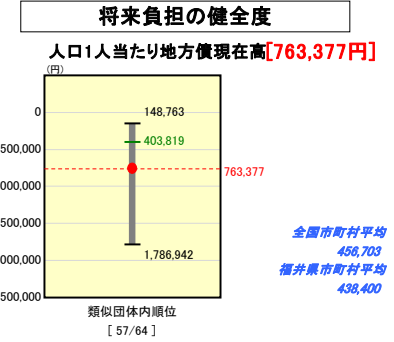
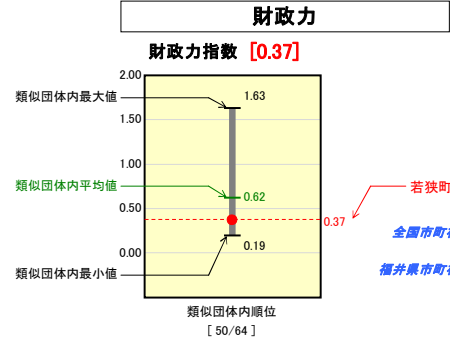


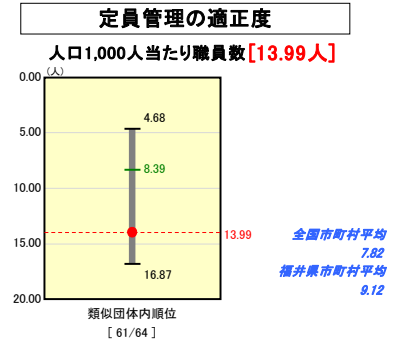
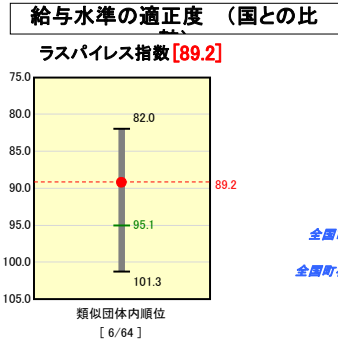
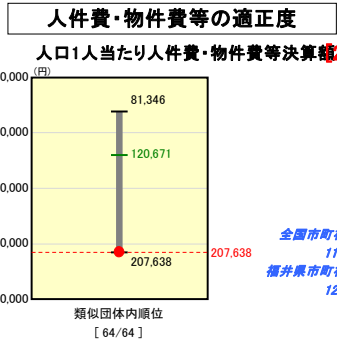
# 市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

## 福井県 若狭町

人口	17,089	人(H19.3.31現在)
面積	178.65	km <sup>2</sup>
歳入総額	10,956,429	千円
歳出総額	10,659,253	千円
歳入総額	234,522	千円



※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

### 分析概

※平成17年3月31日に、旧三方町、旧上中町が合併し、若狭町となった。

- 財政力指数  
人口の減少や高齢化に加え、町内に中心となる産業がないこと等により、財政基盤が強いのが現状である。また、地方経済の低迷による個人・法人関係の徴収の伸びない状況が影響し、類似団体平均を下回っている。限られた財源をいかに、活力あるまちづくりを展開するため、行政の効率化に努め、財政の健全化を図る。
- 経常収支比率  
地方税・地方交付税の減収・減額により経常収支比率が83.3%と前年度を上回っており、財政的に厳しい状況になっている。今後も地方税・地方交付税の伸びが期待できず経常収支比率の上昇が予想されることから、できる限り義務的経費の削減に努め、現在の水準を維持していく。
- 実質公債費比率  
合併関連事業をはじめ普通建設事業費に係る起債償還等の増額により上昇し、起債協議制度において許可が必要となる基準の18%に近づいた。町の総合計画に基づき、今後控えている事業計画を整理し、住民ニーズを的確に把握した事業の選択と、より有利な財源確保に努め、起債に大きく頼ることのない財政運営に努める。
- 人口1人当たりの地方債現在高  
類似団体平均を上回っている主な要因として、平成10～11年度にかけて実施した縄文博物館建設事業と縄文公園整備事業、平

成15～17年度に実施した福祉・保健総合拠点施設整備事業及び平成17年度に合併地域振興基金積立に係る借り入れであり、今後も合併関連事業への取り組みにより増加傾向にあるが、事業の選択・事業計画の見直しにより、新規地方債の発行の抑制に努める。

- 人口1人当たりの人件費・物件費等決算額  
類似団体中最も高い額となっているのは、人口に対する職員数の割合が類似団体と比較して高いことと、平成18年度に福祉・保健総合拠点施設が全館オープンしたこと、合併後の住民サービスの低下を招かないよう庁舎の分庁方式の採用や出先機関等の存続などから、物件費が増えていることが要因にあげられる。今後は、各施設の維持管理費の削減や出先機関等の統廃合、公の施設の指定管理者制度の導入などにより、人件費を含めたコストの削減を図っていく方針である。
- ラスパイレス指数  
昨年度と同じ89.2であるが、類似団体と比較すると依然低い水準にある。今後も財政は厳しく、引き続き人件費の抑制と給与の適正化に努めていく。
- 人口1,000人当たりの職員数  
集中改革プランに基づき、退職者の補充を抑制した結果、昨年度より0.72人の減となったが、類似団体と比較するとまだ多いため、今後も業務委託、指定管理者制度の導入や臨時職員の活用などにより、新規採用者の抑制を図り、職員数適正化に努める。